

柳田様

京交山岳部報

No 312

'78 10月号

〔第1190回例会〕 京都府下30山 その15・その16
三ヶ岳と牛塚 Δ 647.2 (R)

日 時 10月8日(日) 7.00 横大路車庫集合
コ ー ス 京都一大河原一童仙房一番…三ヶ岳一九番—牛場越…牛塚一大河原
担 当 者 横大路 岡本義弘 1/5万図「奈良」「上野」

〔第1191回例会〕 岳連主催 登山祭
花 背 スキー場 (R)

日 時 10月14日(土)～15日(日) 現地集合
担 当 者 本局 大槻雅弘(TEL 269) 申込み〆切 7日(土)
備 考 京交担当として「おでん屋」を予定しておりますので参加者の方
と協力をお願い致します。

〔第1192回例会〕
三 重 岳 (T)

日 時 10月18日(水) 早朝出発予定
コ ー ス 京都一今津一若狭街道一石田川または天増川…三重岳 1/5万図「熊川」
担 当 者 九条 広瀬 烈(TEL 358) 申込み〆切 14日(土)

〔第1193回例会〕 府民登山大会
由 良 ヶ 岳 (R)

日 時 10月29日(日) 10.40 宮津線丹後由良駅集合
コ ー ス 丹後由良駅…中間鞍部…由良ヶ岳…西峰Δ640(希望者のみ)…由良駅
担 当 者 本局 宮後正樹(TEL 251) 申込み〆切 25日(水)
備 考 府民登山大会コースで多数の府民の方の参加が予想されますので部員各
位のご協力をお願いします。 列車 京都駅6.44 二条駅6.52

。 今 月 の 集 会 。

日 時 10月11日(水) 19.00より 下鴨寮

議 題 1. 例会(11190~)

2. 11月例会 集会について

3. 登山祭及び府民登山大会打合せ 他

—当番 高野支部—



案内状異聞

宮 後 正 樹

結婚シーズンに加え、同窓会やクラス会、気の早い忘年会の案内、その他来春の地方選挙に向けてか政治報告会や激励会といった案内が目立つ頃となって来た。同じ案内状でも本當にうれしい待ち遠しいものと、どうでもよいもの、さらには却って迷惑するものまでさまざまである。中でも関心の薄い商業的、政治的な案内はご免蒙りたいものが多い。

それだけに、案内状を出す場合にはどの範囲の、どんな方に、どれほどの人数までと、先ず人選に頭を悩ますものである。会場の都合や会費、料理などの制約もなく、一人でも多くお誘い合わせの上、賑々しくご列席下さい。というのが最も楽だが、大抵の場合はそりは行かない。

そこで先ず人選は、主人公がある場合にはその本人に案内を差上げる人を自らリストアップしてもらい方法と、取巻きの幹事役、発起人などが名簿案を作成してその本人に見ていただきOKをもらって決める方法などが一般的である。こうして決定した名簿に従って案内状を発送しても一番困るのが期限までに返事が揃わないことである。電話で、往復はがきで、或いは返信用のはがきを入れて出してもなかなか返って来ない。一々また電話で確認しなければならぬ手間までかける人も少なくない。また返事を出したというのにどこへどんな方法で出されたのか幹事元へ届かず当日になってお互いに気まずい思いをさせられることや、案内状を出していない人がひょっこり現れたり、勝手に友人を誘って来られたりして主催者側を慌てさせたりする人もある。こんな場合は少なくともあらかじめ電話でも問合せをいただき主人公や発起人などの了解のうえで出席していただきたいものである。

また出席通知を受けて待っているのに時間までにお見得にならず時間厳守で来ている人や定刻に開催できず主催者側をヤキモキさせる人や、すっかり忘れていたスマン、スマンと後で気がつく何とか野郎もおられる。こんな気楽な人には次回から1人で幹事をやってもらうことである。

そうかと思えば出席しても何か喋らせてもらえるのですか、と自分の存在がはっきりしないとツマライと文句をいう人や、何処から聞いてこられたのか自分の所にはそんな案内状がまだ届かない、おかしいといって催足をして来られる人もある。これは元々案内状発送の名簿に入っていないか、名簿にはあっても幹事や発起人などの段階でオミットされる場合もあり、さらに郵政省の都合、手違いで届かない場合と色々な事情がある。最もどうしてもご出席願わねばならない人の場合には当然に主催者側からの依頼、問合せがある筈である。

いずれにしても案内状に限らず行事や例会通知など準備の都合があり期限の付されているものに対しては何らかの意思表示を明確にさせていただき参加する方もされる方も気持ちよく会が運営され皆んなに喜んでいただけるようにしたいものである。

会が始まったが一向に料理が届かないので会場に文句を云ったら、いや何も注文を聞いておりません。と断られたという迷主催者の珍談もあるが、会を催す以上、小さい会でも大きい会でもそれなりに陰になり献身的にお世話下さっている人がおられるわけで、その人達の労苦にも報いるためお互いに心掛けていただきたいものである。

第1186回例会

大和谷より弥十兵衛谷廻行

梅 津 徳 野 治

昨年は台高奥の平谷、千石谷両谷を廻行した。今年はその続きとして吉田君がいろいろ研究してくれた結果、少し南に下がった大和谷本谷より弥十兵衛を廻行する事に決定した。比良「ヘタ谷」ヘトレーニングに行き8名の参加者があったが、研究してくれた吉田君がこのトレーニングで体の調子をくずし、大和谷に行けなくなってしまった。残念ではあったが結果として8月6日に宮後、三橋、吉田、岡田の各氏が奈良県側三之公谷から薫峰に迎えに来ていただく事になり残る7名で出発した。

8月4日 近鉄京都特急15時15分発、松坂着17時00分、17時10分に宮川ダム行のバスがあるが、本日のうちに出来るだけ奥に入りたいのでタクシーに乗る事にして17時35分発車、途中宮川ダムを左に見ながら大和谷林道に入る。道は悪くタクシーの底をするので乗っている我々は気が気でなく、大和谷橋の吊り橋を渡って右岸に渡り、アゲノ谷出合あたりで下車する。タクシー代一車11,400円 チップを含め一台14,000円、二台で計28,000円也を支払う。もうあたりは暗くヘッドランプを出し林道を歩き出す。19時30分。林道終点木原造林小屋跡に着く、20時00分

本日は、ここで幕営してもいいのだが今日のうちに出来るだけかせいだ方が明日の行程が楽なの

でもう少し先に行く事にし、松坂駅前で買ったたりな井を夕食にし20時20分出発する。昼間だとここから溯行が初まるのだが、夜なので道を少し行った途中より谷に下りず滝ノ谷(三滝)を右に見て、大和谷にかかっている木の橋を渡り右岸に出る。りっぱな径がありその径を登る事とし(この小径は地図2万5千、4万には載っていない。5万には載っている)登り出すが、だんだん谷から遠のくようでも谷に下る機会がなく、ヘッドランプの照明のみでサザ衛門谷に出る。このあたりから25年ほど前に地池谷に使用されたトロッコの線路が危険と思われる所に出てくる。21時15分。大和谷に下だらねばと思いつつ何んとなしに道に導かれ、吸谷に着く。21時30分。大和谷の谷の音が遙か下の方で聞えるが、また道に導かれ尾根の曲がり角に着く。この尾根の下の方が大和谷と地池谷の出合のように思われ、地池谷に向かってトロッコがあったと思われまくら木が引いてあり、菅林所があった跡があり、本日はここで幕営する事にする。22時10分。テントを張りなまぬるいビールにて乾杯して寝る。23時00分。夜中テントの周囲でガサガサ音がし、いろいろな動物がきているらしくなかなか寝られない。

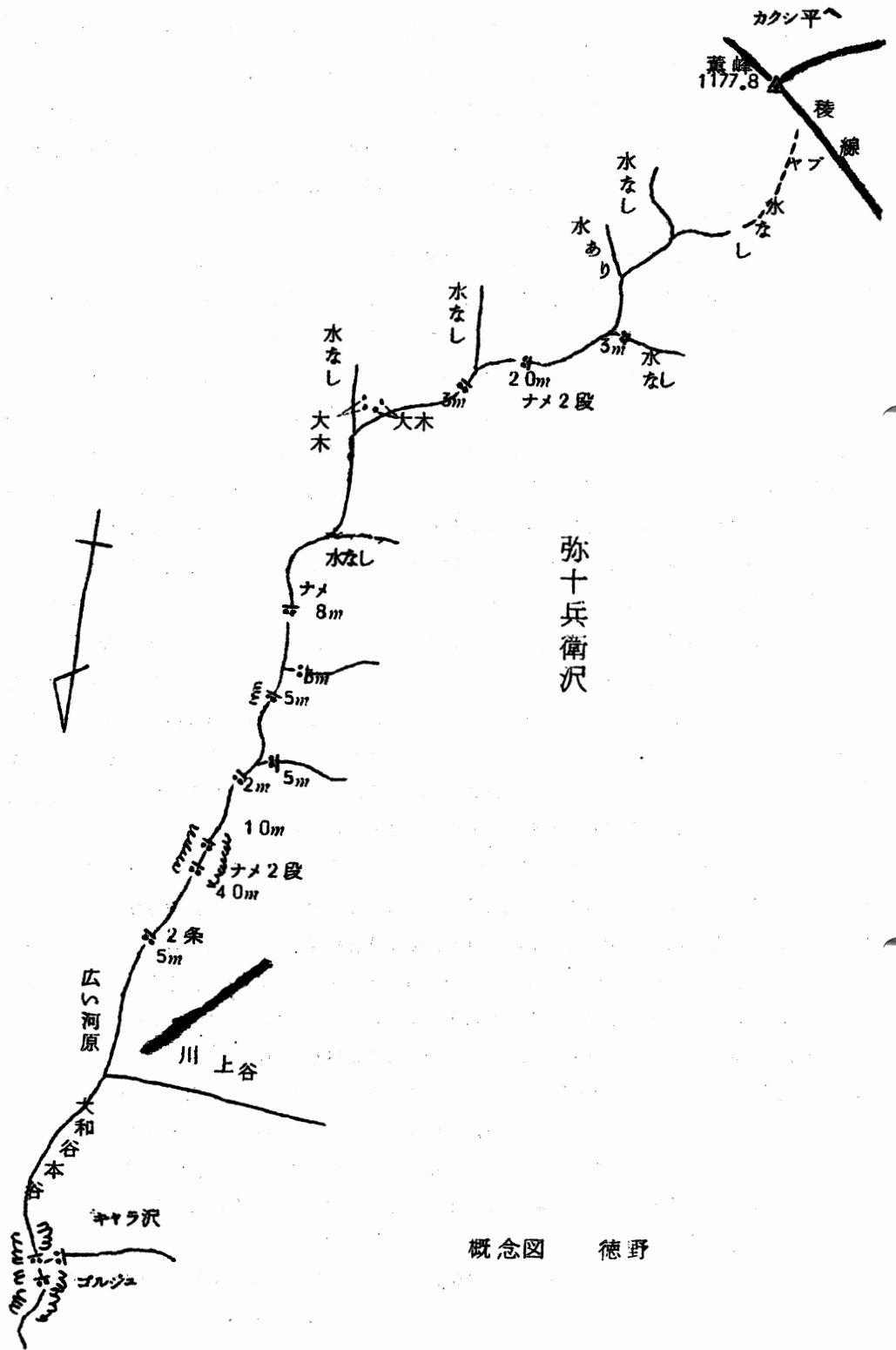
8月5日 起床5時00分 昨日は暗くになにも見えなかったが、明るいといと我々は大変な径を上がってきたなと思う。また大和谷より250mは上がってしまった。もう何が何でも大和谷に降りなければならぬ。だが下るとなると角度がそうとうあり、幕営場より50m上部より地池谷に下る事にする。6時00分。尾根は角度がきつく、途中2ヶ所フイックスザイルして地池谷に着く。大和谷より300m上流で朝食とする。7時00分。地池谷の5mほどの滝を2つばかりこえ、大和谷と地池谷の出合に着く。8時00分。これより足元を固め溯行を初める。この出合あたりは谷幅約40m、大小の岩がゴロゴロとしている。水の中をジャブジャブと入りながら焼山谷出合、8時15分。焼山谷入口には20mの滝が落ち大変に美しい。7月は雨が少なく谷にも水が少ないように思われる。谷を出来るだけ忠実に溯行する。大岩がいろんな形で組み合わせられた大きな谷である。上を向くと吊り橋の跡と思われるワイヤーがある。9時10分。しばらく行くと左岸にロクロ谷が入っている。入口には2段25mの滝がかかっている。9時55分。谷は巨岩と河原の続きで(巨岩や大岩は滝になっている所が多い)右岸にケヤキ谷出合、10時15分。同じようなゴロゴロした谷が続く左岸より脇谷が入っている。11時05分。谷幅はぐっと狭く廊下状になり、布引谷が右岸より30mの細い滝を落している。11時45分。谷にジャバジャバと入りながら、くの字滝の前に入る。11時50分。ナメ滝15mで30度の角度で壺に落ちている。水量が少ないので腰まで入りながら登る人、水に入るのがいやで左をトラバースして登る人などワイ、ワイといいながら滝上に出る。200m行くと目の前に巴滝が現われる。12時00分。滝は2段30mで少しおもしろい型である。滝は登れそうにないので右手のルンゼを高巻いて落口に出る。昼食とする。13時10分。廊下状の谷を150m行くと前方が急に谷が広がり、夫婦滝の前に入る。13時20分。巴滝より夫婦滝の間に銚子谷があるはずだが出合が見つからなかった。(大阪わらしの会ルート図) 我々は巴滝の下ではないだろうかと思う。夫婦滝の雌滝55m2段になり杉沢に入っている。雄滝は60m滝壺はない。2本の滝は大変に美しくりっぱである。我々は雄滝の上に出て川上谷を溯行しなければならぬので、雄滝を高巻する事にする。13時45分。雄滝

の手前右手の尾根状の所の踏跡を赤ぎれに導かれ獣道を上へ上へと登る。沢井、徳田両氏は、ザックがブッシュにひっかかり苦勞する。斜面が急であり右手下には銚子谷が見える所まで上がってしまった。標高950mぐらいの尾根まで上がり、こんどは川上谷への下りである。この下りが、又大変に急で所々に岩が露出し、ほりほりのていで川上谷に下りた。16時15分。雄滝の上流200m程の幕営場所がよい所で、テントを張る。夕食18時20分。篠田君が夕食のおかずにとあまごを釣ってきてくれて楽しい夕食となる。

8月6日 起床5時00分 朝食をし、足元を固め溯行を初める。6時25分。しばらくは広い河原でジャブジャブと水に入り、ゴルジュが初まり小さい滝(2~3m)を越し、キャラ沢出合に着く。6時40分。キャラ沢には6mの滝がかかり滝壺は深そうである。この出合からはゴロゴロ沢でなんなく川上谷と弥十兵衛谷の出合に着く。6時55分。出合は広い河原になり、川上谷左岸には昔木馬道があったらしく、石積がまだ少し残っている。弥十兵衛谷のゴロゴロした沢を行くと、2条5mの滝をなんなく越え、続いてナメ二段40mの滝、続いて10mの滝を越す。水量はだいぶ少なくなり、100m程進むと右側に5mの滝のかかっている沢が入り、我々は左にルートをとる。谷の角度も増し、苔むしたゴロゴロした岩が続く、5m滝を越し(右より小さい沢が入り、3mの滝がある)ナメ8mの滝へと続く。しばらく行くと右より水量なしの沢が入ってくる。200mほど行くと、左より水量なしの沢が入り、ブナの大木左沢に2本、右沢に2本ある出合に着く。2.5万図ではこの当りまで谷筋が読みとれる。我々は右に入り、3m、ナメ20mの各滝を越える。水量がほとんどなくなる。右より水量なしの3mの滝がかかっている。沢が分れ右に150m行くと左の沢に水量が少しあるが我々は右に入る。50m行くとまた小さい沢の出合に着く。もうこのあたりの上が薫峰と思われ、ここで三之公より出迎えにきていただいている4名と無線で交信する。迎えに登ってきていただいたのは部長の宮後、三橋、吉田の3名。かくし平には岡田氏が冷しそりめんを作ってまわっていて下さるとの事、我々は薫峰に50mという高さまで上がってきていると交信する。午前9時。3氏はかくし平より尾根に出る手前との事、薫峰にてゆっくり休んでいてほしいとの事で12時には握手をしようと交信を切り、我々も薫峰に登り出す。稜線まではいやなヤブが50m続き、飛び出した所は薫峰手前30m、そのまま稜線を薫峰山頂に着く。9時30分。

この薫峰は、初代山岳部長の名前をとってつけられた。昭和30年前半、冬の台高山脈全山縦走の時に(地図によって馬ノ鞍峰とあるものもある)命名されたとの事。12時15分。宮後、三橋、吉田各氏が登って山頂にてパンザイ三唱し、ビールにて乾杯し下山にかかる。13時30分。ヤブ尾根を一気に下り、途中1,080mの尾根の上にあがらず、かくし平に向かって谷を一気に下る。かくし平着。15時00分。少し下だった所で岡田氏が谷の水で冷しそりめんをつくってまわっていて下さり、大変にありがたごちそうになる。かくし平より山ひる、山だに、ハチなどになやまされながら、八幡平17時。八幡平の下流より宮後、岡田、三橋各氏の自家用車に乗せてもらい京都着23時00分。

参加者 大槻雅弘、 徳野 治、 沢井佳三、 徳田真三、 篠田勝美、 守山寿彦、
岡本義弘 以上 7名



弥十兵衛沢

概念図 徳野

大和谷廻行コース・タイム

8月4日	京都近鉄特急	15.15
	松坂駅	17.00
	タクシー	17.35
	大和谷林道下車	19.30
	木原造林小屋跡	20.00
8月5日	出発	6.00
	地池谷、朝食	7.00
	大和谷、地池谷出合	8.00
	焼山谷出合	8.15
	吊り橋跡	9.10
	ロクロ谷出合	9.55
	ケヤキ谷出合	10.15
	脇谷出合	11.05
8月6日	出発	6.25
	キャラ沢出合	6.40
	川上谷	
	弥十兵衛谷 出合	6.55
	ブナ大木	8.30
	薫峰	9.30

記録	梅津	篠田
夕食後、発		20.20
サザ衛門谷		21.15
吸谷		21.30
営林所小屋跡		22.10
布引谷出合		11.30
くの字滝		11.50
巴滝		12.00
昼食後、発		13.10
夫婦滝		13.20
高巻後雄滝上		16.15
夕食		18.20
ドッキング		12.15
薫峰発		13.30
かくし平		15.00
八幡平		17.00
京都着		23.00

大和谷から薫峰・三之公谷

— 合宿を終えて —

大 槻 雅 弘

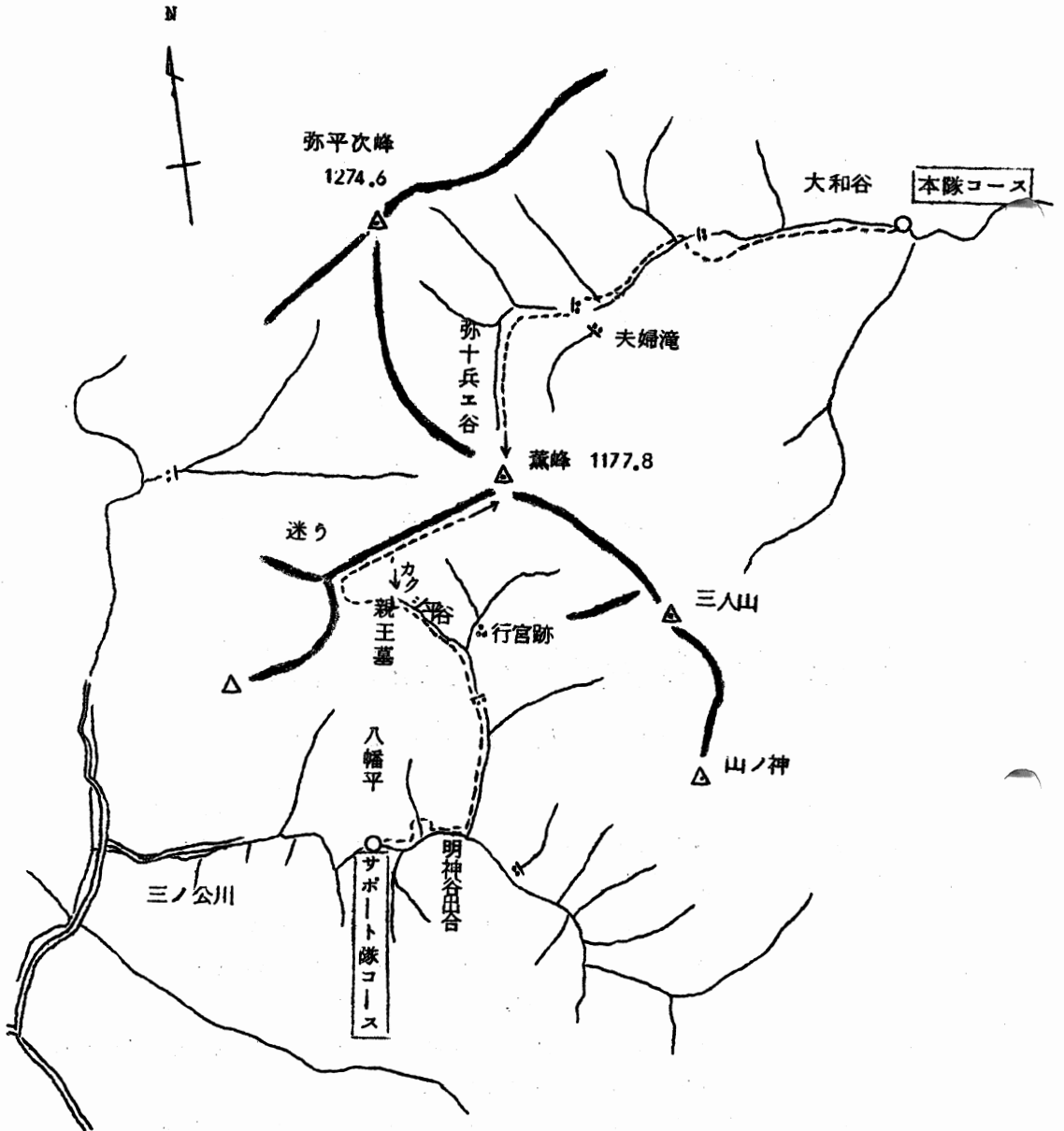
山行の後に心地よい適度な疲労と、少しオーバー気味な疲労とがある。日帰りの山行においては、ほとんどの場合前者の適度な疲労である。

しかし合宿とか、二・三日にわたる山行においては後者の少しオーバー気味の疲れになる。又その疲れは体に残っても、頭の中までは「しんどかった」という思いは残さない。快適、サワヤカ…etc。それは良きパーティーと行動を共にした答えであろうと思う。

今回の山行にあたって、ただ一つ残念だった事は、出発迄リーダーとして資料調査、計画とやってもらった吉田君がトレーニングで体調をくずした事である。

昨年の蓮、奥の平谷、千石谷に続き今年は台高の大和谷を選びそのリーダーをしてもらうべく張切っているいろいろと勉強してもらっていたのに本当に残念である。だが実際には計画の全てをしても

台高薫峰周辺図



らい勉強にはなっただけと思うし、大和谷の廻行こそ出来なかったが、三之公より薫峰で握手出来た事はうれしかった。

我、京交山岳部が来年の創部30周年に向けて現在いろいろと行事を取組んでいるが、その線上のひとつとして、初代部長の名を採った京交として唯一の山岳地における名称、台高山脈の「薫峰」そこで伊勢、大和双方から登り現部長宮後氏以下10名が万才三唱した気分は最高であった。他の山岳部から見ればたかが台高でと思われるが、京交としては「ふるさと」を想う感であり、又、現メンバーがそれなりに努力した山行は何ものにもかえがたいものが各人の胸に残ったと思う。

合宿の取組み方には、いろいろと意見もあろう。先月号の「山声雪語」で部の平均年齢39才、合宿参加平均33.4才と記載されていた。その33.4才での山行にはある程度(いや、むしろおおいにかも知れない)制約された行動しか出来ないし、又技術体力の面からやりたい事に制約されるそんな中でも来年は黒部の谷に入ろうと意見がまとまった。うれしい事である。若いリーダーの人が我々を引張っていてくれる、いや共に参加し、良きリーダーシップを取ってくれる事を願い、是非来年も参加したいと思っている。

最後に、山の情熱を失なわず、明神谷でソーマンの接待をして下さった岡田兄、どうもありがとうございました。

サポートされたサポート隊

宮 後 正 樹

今回の山行は夏山合宿大和谷溯行パーティを台高山脈薫峰山頂で出迎え帰路の足を確保すべくマイカー3台でサポートするのが目的であり使命であった。そのほかに今回は多くの期待と未知への遭遇に胸ふくらむ山行でもあった。即ち

1. 吉野川電源開発計画により入之波にダムが出来て三之公川は湯の谷辺りまで溜水し八幡平は水没すると聞いていたが、どうやら八幡平は助かり以前よりも繁栄しているという。果してどこにどんな風にダムが出来たのだろうか。
2. 入之波は既に水没して道路はつけ替えられているというが、どんなになったのだろうか。
3. 三之公川に林道が出来て八幡平まではもう少しだと聞いていたが、左岸についたのか、右岸についたのか。右岸とすればあの天然記念物トガサワラの原生林はどうなったのだろう。
4. 水没を免がれた八幡平の西浦房太郎さんと夫妻、15年ぶりだがお元気でお過したのだろうか。
5. 無線機(2mSSB 144.180MHz)による交信がどの範囲で可能だろうか。無線機のトラブルは無いだろうか。
6. 大和谷溯行本隊の無事と、予定通り12時~15時に薫峰につき上げ合流できるだろうか。
7. マイカーによる初めての台高入りだが果してどれ位いの時間がかかるのか、溯行パーティ

を迎え下山して京都までその日のうちに帰れるだろうか。

期待と不安に胸おどらせた久しぶりの台高山脈、昔ながらの静けさとダニ、ヒル、アブの待つ自然をもって迎えてくれた。そして1つ1つ期待と不安に答えてくれたのであった。

1. 吉野川のダムは大迫ダムと名付けられ昭和49年に完成したアーチ型ダムで入之波をはじめ100数十世帯の人々が故郷を失っておられる。溜水は本沢川と北股川の出合近くまで来ていた。
2. 水没した入之波のつけ替え道路は、大迫ダムの上を対岸右岸に渡り山腹を縫うようにつけ替えられ入之波の部落はトンネルを抜けた台地にダム補償で建設された新しい町として出現していた。入之波温泉の宿から道はダムサイトへと下り大きなアーチの鉄橋で左岸へ渡り返して元の道が北股川出合へと続いていた。この下流大迫までの旧道は草蒸したガラガラ道と化しもはや通行不能の状態となっていた。大台・大峰方面へは大迫ダムから昔ながらの狭いカーブ道が伯母峰トンネルへと上っていた。
3. 三之公川林道のとりつき点がはつきりしなかったので二股から北股川に入り奥玉谷を送ってからトップを走っていた岡田君に無線で気をつけるように連絡をとりながら走ったが一向に入り口が現れず遂に三之公川の鉄橋を渡ってしまった。あれ!と思いきや、渡り切った所から再び鋭角に三之公川を斜めに渡り返す橋が架っており、かつて左岸の岩壁にとりつけられていた急な棧道の下部へ道路がつけられていたのである。これで対岸のトガサワラは救われ美しい緑の細葉を延して林立し我々を迎えてくれた。一変した様相にがっくりする反面ほっとした気持ちであった。
4. トガサワラの原生林を過ぎた辺りで林道は右岸へと渡りさらに上流へ延長されて八幡平へもう一息のところまで林道工事は延びていた。林道を降り飛び石伝いに渡された小さい板の橋を渡って左岸の径を約20分で八幡平に到達した。元気そうな西浦房太郎さんと夫妻お揃いで迎えていただき玄関に打標させてもらった台高山脈縦走路の標識に10数年ぶりの再開を喜び合うことが出来た。持参のランプの下、熊狩りや鹿、猪、猿など面白い獣にまつわる話を伺い久しぶり歓談し81才、78才とは思えぬお元気な様子に安心した。いつまでも元気で我々山屋の良き相談相手でありたいと思う。三之公谷林道は今年中にはこの八幡平を過ぎ、さらに来年には明神谷の出合いまで延びる計画とのことであった。便利になる反面山林の伐採など自然破壊が心配で何となく悲しい思いで一ばいだった。
5. 大和谷溯行本隊との交信は第1日目の夕刻八幡平西浦氏宅から発放、コールを始めたが、やはり台高山脈を隔てて谷から谷のため取れずに終わった。翌朝7時前に西浦氏宅を出発し明神谷へ入ったところで7時のコールを出したがなお交信は出来なかった。カクシ平への捲道の分岐(明神谷)で岡田君と別れ9時の交信時には明神谷、カクシ平、大和谷弥十兵衛谷の三点交信となる。「こちらJR3KSH」意外、守山君の声である。JR3XHG岡田君との交信がつながり傍受していると「現在地点は薫峰手前50mほどのツメ」とのこと。こちらもブレイクインしJF3OKH大槻君も出て小生のJE3HMBと四局の交信に成功した。メリット5、

クリヤーな交信に本隊の無事を確認しホッとした。

6. それにしても最初の交信でまさかそんなに寝ているとは思ってもよらなかった。早々に交信を打切って尊義親王の墓に詣でカクシ平谷をつめる。支尾根にとりつき稜線直下で再び交信、本隊は既に薫峰に達し三角点手前で待機中とのこと。だんだんあせりが出てくる。約束の12時まであと1時間半である。何とか行けるだろうと頑張る。途中稜線が切れ落ちていのに気づき磁石を見ると北へ振っている。樹上に登って偵察すると薫峰がない。これはおかしいと再びピークまで戻って交信する。身を没する根曲り竹のケモノ道を分けて稜上に戻りピッチを上げる。薫峰が大きく遠い。こんなに距離があったのだろうか。所々記憶に残っている状況が出てくるが案外凹凸のはげしい苦しい登りだった。12時ジャスト薫峰直下で守山、徳田両君が迎えに下りて来てくれる。続いて岡本君の顔も見えサポート隊がサポートされる仕末だった。12時15分懐かしい薫峰の三等三角点に対面し、登頂を待ちわびてくれた大和谷湧行本隊と1人1人感激の握手を交す。パンザイ三唱、缶ビールのカンパイで夏山合宿の成功を祝い。早速朗報遅しと待っている岡田君に交信し合流を喜び合う。

7. 全員で楽しい昼食、1時間余の休憩で薫峰を辞す。登りにつめたピークの鞍部からカクシ平へ直下降、尾根から20分のハイスピードでカクシ平に合流した。冷しソーメンのご馳走で迎えてくれた岡田君に感謝しながら西浦氏宅に元気な顔を見せる。なごりは尽きないが今日中に京都まで帰らねばならない。西浦さんご夫妻の健康を祈り早々にお別れして林道を発車したのは頂度18時になっていた。そうして途中大迫、上市などで一方通行や渋滞もあり夕食タイムも入れて京都へ着いたのはタイムリミット一杯の24時頂度、ようやくサポートを果して解散したのであった。

【サポート隊】 岡田茂久、三橋 勉、吉田 武、宮後正樹

【コースタイム】 8/5(土)~8/6(日)

6.45	八幡平発	10.00	支尾根にとりつく
6.50	ソエの谷	10.30	ツメ、交信
6.55	明神谷	10.35	稜上に乗る
7.00 ~ 7.15	交信、入らず	11.00	北股川・南股谷バック
7.35 ~ 7.45	明神滝を望む	11.05 ~ 11.10	交信
8.10	二ノ滝の上、ヒル襲来	12.00	守山、徳田、岡本君迎え
8.20 ~ 8.35	明神谷 岡田君待機		受く
	「1968.12.6 風峰会	12.15 ~ 13.30	▲ 薫峰 湧行本隊と合流
	かくし平へ」の標識あり	14.30	稜線から下る
9.00 ~ 9.15	カクシ平の谷 交信成功	14.50	カクシ平、墓の下
9.30	尊義親王墓	15.20 ~ 15.45	明神谷、岡田君と合流
9.45	ツメへ	16.50 ~ 17.05	西浦氏宅
		18.00	三之公川林道発
		24.00	京都帰着

第1187回例会

京都府下30山 その11

八ヶ峰

山村 敏郎

8月24日を予定していたのですが都合で9月8日に変更して田中君の車で6.20山の前バス停前出発。コースは予定通り上賀茂、花背峠、広河原、佐々里峠と対向車も殆どない早朝の道を快調にとばして8.00知見に到着。此の辺は冬が早いためか、もう稲刈りがすんでいる所や稲刈り最中の所もあり山奥の生活のきびしさを知らされる思いでした。早速山登、昨年早春に来た時知見川の橋は大雪で壊れていたのが、立派な鉄の橋になっているのにびっくりする。天気は曇一つない快晴で、並通りに歩いていたのでは汗も殆んど出ない位涼しい絶好の登山日和で足取りも軽く快調である。知見の家々を樹間に見おろしながらやがてスキー場に到着。一面のススキと四分咲きの萩が吾々を迎えてくれる。涼しいので一服することもないのでそのまま登り続けて9時過ぎ知見峠、9.18頂上(800.1m)に到着。

早速二人で萬歳をして京都府下30山例会を祝福する。頂上には去年の春にはなかったがその後測量し直したのか低い測量の樁が建てられその下の三角点標石も新しいのに取り替えてある。とにかく腹がすいたので田中君は遅い朝食を、自分は早い昼食をとる。

食後地図を展げて四方の山を見物することにする。曇一つない秋空なので眺望は至極良好で武奈岳、比叡山、愛宕山、長老山、頭巾山、青葉山、久須夜ヶ岳と四方の山々が目をたのしませてくれる。一時間程景色をたのしみ、その上この山頂は何時きてもごみ一つ落ちていないのが実に気持ちよいとの両方に十分満足して山頂をあとにして下山。帰路も一度佐々里峠という事で往路を帰り12.40出発点到着という早いたのしい楽な山行でした。

尚、申し忘れましたが山頂の樁に53年8月24日梅津車庫と刻んであるのを田中君が見付けたのですが、期日までに連絡がなかったのがこちらが予定日を勝手に変更したのを御存知なく当日集合された同志で登られ記念にきざまれたのなら、予定変更の件実に申し訳なく思いますのでお許し願いたいと思います。また例会とは関係なしに別に計画されたのなら交通局の別々の2組で偶然顔をあわせる事になった筈と奇遇に思っています。いずれにしても当方の予定変更のためと残念でしたので不悪。

〔案内〕

- その1. 知見の道路の終点は自動車のターン場所なので自動車利用の方は地元の人の迷惑にならないよう駐車位置に注意するように。尚、地図は5万分の1、小浜・知見までのルートはドライブマップで。
- その2. 登り口は橋を渡った一軒屋の所で田圃の方に行く道(平担路)と山の方へ行く道(登り坂)が岐れているのでまちがえぬように。

- その3. スキー場をすぎてすこし行くと左側は雑木林、右側は伐採された尾根道に出る。行し手の木のはえた丘のような所が知井峠。その右に送電鉄塔の後ろに見えるのが八ヶ峰(測量の檜あり)。
- その4. 峠についたら広い道を直進、(途中で右へ道らしいものあり、注意のこと)やがて道は熊笹がはえ繁った所で行けなくなり、自然に右折して登り道に入る。やがて鉄塔のすこし手前でまた左に岐れる道があるが、これは関電の巡視路(この道を行けば鉄塔ぞいに染ヶ谷に降りられるかもしれないが、保証の限りでない)らしいので迷わず鉄塔の方え尾根道を直進する。
- その5. 鉄塔をすぎて50m程行くとまた道は分岐するが、今度は笹の生えた細い悪い方の左の道を行くとすぐ頂上に出る。(右のよい方を行くと色々紆余曲折はあるがやがて知見の出発点にもどる。下り道として利用可能であるが健脚向き)。
- その6. 北山(その2)に写真入りで紹介してある石仏は峠について30m程進んでから右の高地を熊笹をわけて登れば高地の頂上近く伐採線から30mほどはいったブッシュの中に鎮座します。

[同行者] 田中忠久

[コースタイム]	6.20	山の前バス停発	9.03	知井峠
	6.45	花背峠	9.18	頂上着
	7.20	佐々里峠	10.18	頂上発
	8.00	知見峠	11.03	知見着
	8.10	知見発	11.10	知見発
	8.37	スキー場	12.40	山の前バス停着

鹿倉山(△548m, 地図福知山)

と △ 547m(綾部), △ 589m(綾部)

坂井久光

8月26日 山陰線園部駅で下車。国鉄バス檜山行に乗り、終点で下車。福知山行のバスを待ち荒原で下車。角の店の主人藤田和則さんに会って△548mの山名や登路を問う。

三和町役場に勤める高橋高治さんが山好きで、毎年新春登山しており、道もついているとのこと。旧国道を歩いて土師川の橋を渡り、製材所の前で薬局の横の三叉路を南西に左に曲る。荒原下の部落を通過して平ヶ鼻川に沿った舗道を歩き、2万5千分の1図に狼谷と書いてある新しい工事中の深山林道へ曲り、右手に林道支線を見送る。左に轟水への山道を見送って1km程先でブルが働いて工事中でその先に杉林へ山道が続いていたのでそれをつめたが、奥で道が消えた。谷筋をつめて登ると稜線に出て切開きがあって少し登ると山頂で展望は極めて良い山頂であった。

三角点は欠損しており測量旗が立っていた。又第三回鹿倉山新春登山の標柱が建っていた。南に栗鹿山が大きく、北に福知山、東に菟原の山村が絵の様に美しい。西に妙高山らしいピークが見えた。少し早いパンを食べて一休みして東に切開きを下った。途中峠道がクロスしていたので北へとり、山腹を巻いて下りやがて谷筋に下る道と合した。小谷を下りて登りの林道分岐の約1km程南の舗道へ下った。帰路林道工事の地元の人と会って轟水(地図に記入あり)の因れや、山頂の西方に鍵懸地蔵があり、木の枝を懸けて願をかけると叶うそうで村人のお参りが多いそうだ。轟水は、林道との中の小谷の源頭にある湧泉で、昔水口次郎平衛と云う人が山中で水音を聞いて探し出し、現在三和町菟原下地区の水道として使用され、轟水満宮なる一小祀があり、樫の大木が一本あり、水源はコンクリートで蓋がしてあったが、下にコックがありひねると冷たい水が湧いた。

下菟原を通過して菟原でバスを待ち福知山に出て下夜久野の未登の三角点を目指したがバスや汽車の便が悪く、京都行の汽車で和知に行き、京都バス静原行に乗り、先の長老ヶ岳登山の帰り一同が接待を受けた私の釣友、脇谷の森茂さんの民宿へ行き泊ることにした。

森さんは突然の訪問に驚き三谷君から私の本の出版を聞いていて喜んでくれ、その晩は山女魚と鮎の塩焼、今西先生も称味された鹿の背肉の焼肉にビールで祝杯を上げてお互に近況や山村の話しを話合った。借地が少ないので現金収入が少ないので生活は苦しいが、環境が良いせい子供も本人も病気が愈り健康になったので喜んでいるとのことであった。

夜は涼しくクーラーの必要はなくキリギリスやトンボが飛込んで来たりした。この辺りは昔の京都と一緒に自然が保たれている。

翌27日、朝食後弁当を作ってもらい別れを告げ脇谷橋を渡って北の音海谷林道に入り、△547mを目指した。岩江戸に越す峠道は砂防堰堤の所から右に山道が分れていて辿ると始めは良いが、段々草の繁りがひどく道が消えてしまい尾根に踏跡を見付けて登ると山頂に達し、三角点は健在であった。土産の小西瓜を喰べて一休みの後、北の尾根筋の刈分けを進んだ。すると岩江戸からよい道が上って来て合し北へ下ると杉林のコレで、下に村人が休んでいたの谷へ下って話合った。

小淵の人達で木材の材積調べに来ているとのこと。杉林を下って植林道に出て谷の出合で夫人達が草刈で休んでいた。ここから右岸沿いに山道は刈られており歩き易い。下ると林道で5,600mで音海への舗道と合し、谷沿いに下って府道で車をヒッチして升谷へ。頂度京都バス東舞鶴行が来たので広瀬迄乗り、△589mを目指した。

広瀬の部落へ行き、とある農家に入り山名や登路を聞いたが、今日は部落の行事で主人達は皆留守で山に詳しい人がいないとのこと5万分の1図で見当をつけて北へ登ったが、地図の道ではなく少し西の支尾根を登って尾根筋道に合して北上した。道は比較的良好に尾根の東側を通過して右手に種ヶ谷川を見下ろして登った。東側は伐採されて後に杉が植えられており見晴がよい。△の東のルンゼ状のところを登った。露岩が多く登切ると雑木林に根曲笹の山頂で標識を打った木の附近を探して三角点を見付け周囲の笹を刈払った。東南方のみ少し見晴らせるが他の方角は林で展望がきかなかつた。少憩の後南へ向って露岩の間の踏跡を辿って下り道に出て担々として長い尾根道を下り、道端の一本の枯槎に秋の色を感じた。下ると万会山霊園の標柱のある墓地へ出てそこから車道を下

って広瀬のバス停へ。

京都バスで園部大橋へ行き、駅へ行き汽車で嵯峨駅に戻って帰った。

大尾山

8月25日 晴

畑 照 人

西方面の山へ行くのが多いので今日は東の方へと志す。洛北高校前から一足おくれで、62号の出た後、約35分待って10.10の市バスに乗る。車内の約半分はチビっ子達で八瀬遊園地前で下車した。後は大原観光客と山へ入る私だけ。車の少ない週間日なので快走して約30分で大原終点へ到着する。それにしても大原の景色も変わったものだ。村の観光協会から大原女姿の娘を出して、休日毎にアマカメラマンの為に無料サービスしてPRしていた時代もあったのに…。道は小路まで舗装されて味気なし。至る処に土産物屋が軒を並べて客呼ぶので、昔のヒナビタ風情は何処へいったのやら…。前代の良き時代を知る者にとっては淋しい気持だ。音無滝へ着く。余り小さいので一寸拍子抜けだ。名に引かれてワザワザ見に来た人もあるが、皆さんもそう思っているだろう。此所から山へ入るのだが、勿論私1人だけである。滝から10m程引返し左手の山道へ入り暫らく川に沿って行く。まだ向うへこの道は続いているらしいが、北側にルートらしい道がありそれを上る。中々急な上り坂だ。所々に白布を吊りながら進む。どうも一般用のルートでは無いらしい。11.48に道標のある場所に着く。京歩会の打ったもので大尾山。三千院大原道とあり、南へ下る小径があるが、それがルートと思われる。12時丁度に頂上らしき所へ来たが三角点無く、見晴らしも悪い。まだもう一つ北のピークらしい。大きな新らしい送電線塔が見える。それを目標に進み8分後、三角点のある頂上に着いた。二等三角点なので大いに気を良くした。万歳と例の三角点祭をやる。附近偵察の為5m程北へ出ると、何と琵琶湖が一望だ。これは思いもよらなかった。(認識不足かも)それだけに何だか儲けものしたみたいだ。大原ゴルフ場の芝生がきれいだ。南へは仰木峠へとあり、今立っている場所は一寸した峠という感じである。帰りは仰木峠へ出ることにする。可成整備された良い道である。スッと調子よく行けたと思いでしようが、チョイ待ち、地図を忘れた為に大いに難儀致しました次第を恥かしながら書きます。先づ天気はよし、大尾山の初登りもやったし、2等三角点もこの足で確かめたと大いに気分良く、快調に下る。道は下へ下へと行くので、本当ならば変だと思ひ答だが…。遂に送電線塔のある所まで下り新道の広い道があり、それを山手の方へ歩くと行き止まりになり、又細い山道へと続いている。地図がないので何処に居るのか判らない。作業している人に尋ねるが、余り詳しい事は知らない。今の広い道を引き返して仰木へ出てバスに乗った方がよらしいと云うのだ。一先づは御礼を云ってまた歩き出すがあほらしい。そんな事出来ますかいな。へへへと

云ったが大尾山へ引返すつもりである。今度は注意しながら元の道を上ると、林の切開きらしい所にテープが巻き着けてありよく見ると仰木峠へと書いてある。ヤレヤレこれで峠へ出られるとピッチを上げる。全くのヤブ山である。所々テープが巻いてあり、それを便りにドンドン行くが、中々峠らしい場所へ出ない。仰木峠そのものは、今迄にも二・三度通った事があるのでよく知っている。一度下り二度目のピークを過ぎる頃どうも北へ向って歩いているらしい。というのは太陽を左に見ているから、今年午後2時すぎだからそれは西である。南へ向っているのなら右手に見えなければならぬ。念の為、磁石を出して見る。正しく反対方向へ歩いているのだ。いつどこでどうなったのかサッパリ合点が行かぬ。然し現に北へ向っているのだ。これでは峠へ出られない訳である。時間は3時を過ぎた。思い切って大原方面と思われる谷へ飛びこむ。これが何とも猛烈なヤブコギである。それも当然だ。人の道らぬ谷だものね。もう大分下ったので今更上へは登れぬ。シャニムニ、ヒタスラ下へ下へと進む。そのうちに小さい谷水があったので、それに沿って行くことにする。雑木が茂っているので小川の場所が定かでない。川中へ入り岩で足を打ったことも時々あり、又雑木雑草にせき止められて立往生。回転といえればよいが転落して三脚のお蔭で止まれたことも二度三度。イヤハヤ苦行の連続である。半袖シャツなので両手は傷だらけだ。予定は1時間で下へ出られることにしているが心細いことこの上なし。その中に少し道らしい処へ出て一寸安心、小休止する。谷の水のうまかったこと。気を取り直し尚も下るうちに北山名物の木馬道に出る。これで里近しと勇氣百倍、滑る足許を注意しつつ約500米程あったと思われる木馬道と別れて少し行くと立派な道となる。これが何と何と音無滝との分岐点なのだ。イヤ全く良かった。ホッとしたね。川巾の広くなった小川で顔を洗い身体も拭ってヤッと人心地にかえった気持だ。暫らく休んで大原のバス停へ着くと丁度発車するバスに間に合い、(まるで時刻を知っていたみたい)乗車する。

今回の反省

1. 地図を忘れるとは以っての外である。どんな近い山でも低い山でも絶体必要。
2. 暑くとも長袖シャツの準備をすること。着て暑ければリュックに入れておくべきである。ヤブで負傷することもあるので…。
3. 救急薬は何にも持参していないが、これも一考の要あり。
4. 磁石はいつも入れて持っている。これも今回間に合った。

もう一度コースを確認に行きたいと思っている。仰木峠から大尾山へ北上するつもりである。このまゝ引き下るのはどうも気に入らぬ。

愛宕山

8月22日 晴

残暑きびしき時候どころか、真夏も顔負けの猛暑である。降雨量が少ないので清滝川も細くなっている。それでも水を求める都人で大いに賑わっている。流石、山へ入る人は少ない。25丁目小屋の近くで中学の女子グループが始めて愛宕山へ来たのだが疲れて皆グロッキー状態であった。も

っと涼しい時節を選んだ方がよいのにとアドバイスする。来た以上戻へ戻れずボチボチ上ると云っていたがあれでは何時頃、神社へ着くのやら…。こちらも一寸えらい。小屋毎に小休止をとる。冷凍庫で冷やした番茶が丁度良い調子だ。氷となっているのでガブ呑みが出来ずにポリタンの蓋に一杯程水になっているのだ。約2時間で神社着。24.5°矢張り気温が低くてよらしい。社務所でいつものように熱いお茶をと思って行くと雨が降らぬので水不足に付、箕待出来ぬと張紙してある。雨が降るまで中止らしい。大雨の来るのを待っているのは今の皆の気持である。水の有難さを思う。愛宕山頂附近に水場の無いことを知らない人が多い。神社前で会った一人の青年もそうだ。水尾道への途中に一ヶ所水の湧出場を教えると、そこから来たが水は殆んど無かった。あの水を飲みたいと思って来たのだがという事であった。私も下りにそのコースをと考えていたが、水が無くては行っても無駄である。あの水は味がおいしい。私もそう思うし、その青年もそう云っていた。休み小屋 差入れのアサヒ本生1本頂戴して月輪寺コースを下る。月輪の水も温かくて味が悪かった。

花便り 水尾分岐道から上でホトギス三種(ヤマジ、ヤマ、チャボ) ミズヒキが目を楽しませてくれました。黒門も再建中でした。下界の温度は36.6°と発表されました。尚全国的な高温だったようです。沖縄の方が涼しかったらいいですね。

厚生会夏山登山

妙 高 山

三 橋 勉

最近の厚生会夏山登山は、どこかで雨になるというジンクスがあるようだが今年は登山の当日、朝から雨である。それも新潟県地方は佐渡を除いて大雨注意報が出ているというテレビの予報を見ながらとりあえず朝食をすませて、地元の山岳ガイドである宿の支配人に聞くと、雨が降るとくずれやすい地形であるので止んでから2時間たってから出発してほしい。頂上までは時間的に無理であるが3時間程の周遊コースがあるという事なので雨がやむ迄待機することにする。

9時すぎに雨が止んできたので、11時に昼食をすませて出発準備をするよう指示する。例によって体操をしてから1班から6班まで順に出発する。冬にスキーで来たことがあるが、夏でないといけないような谷川がはるか右下に見える道を進む。釣橋がありなおも進むと登山道との分岐点に出る。惣滝とある右の方向に進むとやがて左手の岩の間から硫黄のにおいのするなまあたかい水が流れていた。このあたりに元湯でもあるのかな?と思いながら進むとやがて惣滝が見えてきた。雨で水量が増した水が、ゴウゴウと大きな音を立て、落ちてくる。

また雨が降り出したのかと思っていると滝のしぶきがかかっているのである。1列になって1班から順に滝の落ち口を一まわりする。約50mの高さで、巾10m位の滝であった。

滝見物を終って途中まで引返し先程の登山口分岐点まで戻る。登山コースはジグザグの急な登りである。10分程登ると火打山コースと別れてゆるやかな登りになった。人数が多いので各班ごと

に行動するように指示してあったが、子供達は先に登ってしまつてそこらにいない。ようやく麻平で休憩している所で追いつき「団体行動の時は自分勝手に登らないよう」注意する。各班共足並みが揃わない為、遅い人はあとにまわして出発することにする。

森林帯の中を進むと、風もなくむし暑くて見透しの悪い所なので、だんだんペースも遅くなってくる。血ノ池あたりで下り道になりようやく谷の出合に到着した時には13時20分になっていた。もうこの時間では頂上へはとても無理である。

各班の到着時間にずれがあったが、14時に1班から下山することにする。今度のコースは谷をはさんで向い側の比較的明るい見透しのよいコースである。谷が滝になっているのでジグザクの急な巻き道を降りることになった。この頃には薄日もさしてきて称名の滝が美しく眺められた。

温泉の元湯管理小屋のそばに水場があり、冷たい水で喉をうるおし、元氣よく歩き出す。スキー場の鉄柱のある広い斜面に降りてくると開放的になって子供達は走り出した。スキー場の下の広場で体操をしてから、汗を流そうと有志で露天風呂へ行く。つり橋の下の道を少し川上へ上ると10人位入れるお風呂があった。

子供が入っても丁度よい湯かげんであった。天井のない自然のお風呂に体を沈めると何ともいえない幸せなひとときである。山頂に立つ事が出来なかったが、このお風呂に入れただけで、もう満足であった。

コースタイム

出発 11.15 … 惣滝 11.30 ~ 35 … 麻平 12.15 … 血の池 13.00 … 谷の出合(折返し点) 13.15
~ 14.00 … 温泉帰着 15.00

坂井久光君

出版記念祝賀会報告

53年9月2日(土)

14時~16時30分

於鳴滝寮

出席者 来賓 今西錦司氏、仲西政一郎氏、角倉太郎氏、松浦勇次氏、中村 綱氏、
官村末初氏、横田明男氏、中田 勇氏、古川英治氏、賀嶋増造氏、
三谷忠男氏

名誉部員 近藤 薫氏、伊藤潤治氏、山村敏郎氏、中村維源氏、王生そと氏
部 員 木下嘉造、沢井佳三、渡辺朋子、楠とし子、守山寿彦、坂田利春、
台川敦美、牧野 健、山口武夫、盛田一郎、大倉寛次郎、武田喜久郎、
岡田茂久、徳野 治、石田幸次、三橋 勉、広瀬 烈、岡本義弘、
坂井久光、宮後正樹、田中忠久 計 37名

協賛者 部 外 山口政一氏
部 員 山下周道、田中繁行

長かった暑い夏もようやく衰えをみせ、朝夕の涼しさが膚に感じられるようになった9月の土曜日、坂井久光君の「関西とその周辺の山」出版記念祝賀会を鳴滝寮にて催しました。

今西先生初め多数のご来賓の方々、とりわけ中田氏は広島から、仲西氏は堺からはるばる来ていたなど、たいへん盛大に開催出来ましたことを紙上ながら厚くお礼申し上げます。またご協賛の皆様方いろいろとありがとうございました。

ご来賓の皆様方、名誉部員の皆様方からは、坂井君に対して多数の祝辞やあたたかい激励をいただき、またご経験豊かな山のお話を聞かしていただくなど、たいへん有意義な祝賀会にしていただきましたことは望外の喜びとするところです。今後ともよろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

以上簡単ですが、坂井久光君の「関西とその周辺の山」出版記念祝賀会のお礼と共に報告とさせていただきます。なお、多数のご寄贈をいただきましたので、多少会計に残高が出来ました、図書券ほかに使わせていただきますのでご了解のほどお願いいたします。（田中）

例会報告

例会No	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記 事
1187	京都府下30山 その11 八ヶ峰	(変更) 9月 8日	晴	名誉部員 山村敏郎氏	田中 忠久	8月に登りたかった八ヶ峰だが都合悪く9月の今日になってしまった。おかげで清々しい気風すばらしい天候、すばらしい展望の八ヶ峰に登ることが出来た。 今年1月の由良ヶ岳に始った京都府下30山登山、来年12月の三国峠まで一山一山片付いていくのは楽しい。 詳細別稿報告
1188	京都府下30山 その12 鴻 応 山	9月 3日	曇	本局 大槻 雅弘		担当者の体調悪く17日に延期
1189	京都府下30山 その13 14 太鼓山と 依遅ヶ尾山	9月 9日 ~10日	晴 後 曇	本局 岡田 茂久	宮後、大槻 と家族3、 武田と子2 広瀬と子1 渡辺、楠、 柳田、吉田と家族3、三橋と家族4、岡田 子2	合計25名の大部隊が大江山スキー場でテントを張り、断水で水を煮までもらいに行き、お月見はわずかの間に雲にかくれて出来なかったが、オダンゴや花火や子供の映画会等楽しい一夜を過した。 翌日、2才半から小学生まで1ダースの子供達と共に元気に依遅ヶ尾山(2等三角点)を75分で登り日本海の見える山頂で万才三唱する。続いて大鼓山へ也から15分で1等三角点を踏んできたが残念ながらこちらの展望は小雨の為出来ずに標識板を打ってきたので又の機会に登りたいと思いながら下山した。

雜 報

9月集會報告

出席者 名譽部員 山村敏郎氏
本 局 大槻、武田、三橋、宮後
梅 津 吉田
九 条 田中 以上 7名

京都府第1回府民体育大会の一貫として開会式を西京極グラウンドで9月15日、9時30分より開会され、山岳部門のスポーツ功勞者として岳連角倉会長が表彰された。次いで花背スキー場で登山祭を10月14日～15日に、そして10月29日に府民登山大会「由良ヶ岳」を京交担当で登るといふ計画である。京交山岳部としても、多数の参加を期待しています。

部費受領

53年度分と臨時会費

本 局 上島和彦、渡辺智生、上島昭二、坂井久光、長谷川雅也
九 条 滝 裕、高橋 明

53年度分

本 局 奥村弘信、藪田民栄、田中 明

臨時会費

烏 丸 石田和男、北林修一、山下周道、河村 清、井上英雄、今井武夫、尾崎重夫
田村忠司、上河原 昇

九 条 沢井佳三

市役所 大伴嘉男、山崎文夫、河島健次

名譽部員 伊藤潤治氏(5,000円)

52年度・後期

九 条 高橋 明

一般寄付金 丸山万蔵氏 6,000円

企画運営リーダー会


10月20日(金) — 三橋宅

真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい
確信ある用具を
確信ある価格で……
好日山荘
河原町六角下東入
TEL241-1731



PRO SHOP
山とスキーチヨル
輸入品とオリジナルの店
AM 12.00 ~ PM 9.00 三条御幸町下
定休日 月曜日(221)6186

HORIIKE まかせて下さい……ネ
山とスキー
のことなら……
☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具は“ゼヒ”御相談下さい
山とスキー専門店
ビッグホリイケ
河原町店 上・河原町通丸太町東入
烏丸店 中・烏丸丸太町南下東側



HIKE & CAMP
この用具の事なら「ニシ」が一番です!
御来店ありがとうございます
山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして
海の
ニシ
中・二条通河原町西 TEL231-1208

昭和53年10月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局 内 京交山岳部

京都最高のアクアラング用品専門店

- ウェットスーツ製造直売
- 潜水器具特別割引販売
- 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による
安全確実な潜水指導 (毎週木曜 夜7時ヨリ)

ダイビングプロショップ
エリート

スキューバプロ (米)	京都総代理店
スキューバエアロ	京都総発売元
AMF ポイト (米)	京都総代理店
テクニサブ (伊)	京都総代理店

603 京都市北区堀川通北大路上ル東側 TEL 075 (492) 8450

テニス用品
スキー用品
山用品

交通局の皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします

京菱運動具店

下ル大宮松原上ル
TEL 801-1331

お馴染みのスポーツ店

一般スポーツ用品・用具
家庭用体操器具

購買証でご利用下さい

KK 西沢スポーツ

中、釜座御池下ル
TEL 821-5739



京都市中京区新町三条上ル
TEL 075-255-0288

帆布・透布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミヅ車庫前
TEL 801-5331 (代)

名古屋営業所
名古屋市中区八玉町7-30
TEL 521-741代-4